

2022年7月24日

交換留学報告書

-延世大学-

静岡県立大学

国際関係学部国際言語文化学科4年生

延世大学で過ごした1年間、人間としても、社会に出る前の人材としても、大きく成長できた。新型コロナウイルスの影響で、思うようにならない事も多くあったが、それらも含めて自身の糧になったと感じている。留学中のことについて、授業、課外活動、新型コロナウイルスの影響の三つに分けて報告する。

まずは授業に関してである。授業は主に一コマ1単位、3時間で構成されている。授業の難易度や課題の量は科目ごとに違うため、学年の区分がされている。これは日本と同じだが、課題の量や授業の進め方は日本よりも多様だった。同じ科目や授業群でも教授によって難易度や課題の量が違うため、履修登録の前に授業の口コミをよく調べる事が重要である。韓国では就職時に大学の成績を重要視するため、成績をよくするためにも一生懸命な学生が

多い。いい成績を取るためには、自分の努力だけではなく、授業選びも大切である。そのため、学生同士が授業の口コミやサークルの口コミ、教授に関すること等々を共有できるプラットフォームが発達している。授業の口コミ等を共有できる『エブリタイム』というアプリケーションでは授業関連のことだけではなく、学生同士が交流して会ったり、寮のルームメイトを探したりするためにも使われている。日本よりもデジタル化が進んでいることによる恩恵を受けていると感じた。

かくいう私もこのアプリケーションを通してある出会いを得た。昨年の半年間で韓国人の友人作りに難航したため、その相談をこのアプリに上げたのだ。すると、ある学生から「日本語の授業をされているノ・ヘギョン先生にコンタクトを取ったらどうか」という提案があった。その提案通り先生に連絡をしたところ、日本語の授業の助教授としての仕事をさせて頂けることになった。そこで出会った卒業生の方に翻訳の仕事を紹介していただいたり、授業関連の書類を作成・提出したりしたことは、非常に貴重な経験であった。



(ノ・ヘギョン先生)

昨年後期は主に英語で受ける授業を取り、本年前期は韓国語を中心に授業を受けた。英語の授業も韓国語の授業もほとんどがネイティブなため、特別な言語的配慮はなかった。しかし、ある教授はご自身が日本語が出来るからと日本人留学生のみ日本語での試験解答を可能にして下さった。ある日本人の友人は手話の授業の教授とカフェに行っていたこともあった。教授と学生の距離が近いのも新鮮であった。韓国の大学に在籍中、日本人であるために

肩身の狭い経験をしたことは一度もなかった。韓国に留学すると、帰国後に知人から「嫌な思いをしたことはなかったか」と聞かれることもあるが、そのようなことは一度もなかったと断言できる。

次は課外活動に関して報告する。コロナウイルスの影響もあり、サークルには所属しなかったため、関わりの多い人は必然的に寮で出会う人が主であった。私は一年間、中国人2名、韓国人2名、日本人1名のルームメイトに出会った。全員いい人であったが、生活習慣の違いや衛生観念の違いなどで難しいことも多くあった。特に韓国人二名との生活は、とても楽しかった反面大変な事が多かったように思う。一人目の韓国人ルームメイトは、昼夜逆転生活をする事が多かったため、規則正しい生活を好む私とは合わなかった。ただし、寮内にいる事が多かったため、良く会話をしたルームメイトだった。よく私の言葉を聞き取ってくれて、優しく話しかけてくれたため、会話をするのが楽しかった。韓国語の実力も大幅に伸びたように感じる。二人目の韓国人ルームメイトは、一人目とは真逆のせっかちで明るい性格で、話す言葉も早かった。しかし毎日会話していれば慣れ、彼女の言葉を通してより韓国語の実力は伸びた。ルームメイトが変わるとともに、私の韓国語の話し方や口癖が変わっていったことも非常に興味深かった。

そもそも、家族から離れて住むことが初めての経験であったため、初めての寮生活はストレスもたくさん受けた。しかし完全一人暮らしではなく、寮で暮らせた事は私にとって非常にいい経験だった。寮内で新しい友人に会っ

たり、ルームメイトを通して新しい人に出会ったりしたことは、学校内の寮だからこそ得られた経験である。



(同じ寮の友だち)

最後にコロナウイルスの影響について話したい。昨年の後期は、韓国で新型コロナウイルスが大流行し、学校内にほとんど人がいなかったため、学校内での出会いがほとんどなかった。昨年の半年間だけ留学に行った仲間と、

今年の前期に来た仲間を比べると、その交友関係の幅には大きな差がある。積極的に活動をして、そもそも学校の中にいる人数が多くなかったのも、出会いの幅が限られていたように感じる。学校での対面授業が増えるとともに、学校内での出会いも増えてきた。コロナウイルスが学校運営に影響を与える限り、学校内での出会いには副作用が伴うと感じた。

コロナウイルスの影響で出会いに恵まれなかった一方、出会った人と深くかかわることが出来たのは良かった。中国人のルームメイトや言語交換をしてくれた先輩は冬休みの間にも私を寮から連れ出してくれた。コロナウイルスの影響で人との関係が希薄になりがちだったからこそ、優しくしてくれた人々の暖かさが心にしみた。中国人のルームメイトとは帰国後も週一回のペースで日本語と中国語の勉強会を開いており、韓国人の先輩ともよく連絡を取っている。コロナ時代の留学は以前よりも難しい部分もあったが、留学したこと自体は自身にとって貴重な経験であったといえる。



(韓国人の先輩)

今後も留学の経験や留学中に培った自身の好奇心を活用し、より様々なことに挑戦していきたいと思う。今回の留学は、延世大学の国際交流院の先生方、県立大学の国際交流センターの先生方のお力無しでは出来なかった。再度感謝を申し上げたい。